

基本目標3 子どもの個性と力がのびのび育つ教育のまち

- ◇ 安心して子育てができる地域の子育て力の強化やワンストップの子育て支援により、子どもがのびのび育ち、子育て世代に選ばれるまちを目指します。
- ◇ 刻々と変化する社会の中にあっても、自分の長所を見失わずに、チャレンジ精神をもって、いきいきと活躍できる人材を育む、特色ある教育が受けられるまちを目指します。

【3つのチャレンジ】

継承	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域の子は地域の力で育てる意識醸成
進化	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達一人ひとりが、主体的に、かつ様々な人と協働しながら学び、答えを導き出す力の育成 ● 日々進化する情報通信技術等の新しい技術を活用した教育により、子ども達一人ひとりに最適化された学びを提供
学びと行動	<ul style="list-style-type: none"> ● 家庭や地域の教育力向上

基本施策4 安心して子育てができるまちづくり

施策9 切れ目のない子育て支援の充実

◆施策の目指す姿

- 一人ひとりの子どもが、地域全体に見守られながらのびのび育ち、安心して子育てできるまちを目指します。

【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値(年度)	目標値(2025年)
市民意識指標	「子育てしやすいまち」だと思う市民の割合(%)	51.8(2019)	53.0
市民取組指標	「子どもや子育て家庭をあたたく見守り、必要があればサポートしている」人の割合(%)	30.0(2019)	32.0

◆現状と課題

- 共働き世帯が増え、ファミリーサポートセンター事業の依頼会員が年々増加していますが、提供会員は高齢化が進んでいます。
- これまで保育園の待機児童ゼロを維持してきましたが、共働き家庭が増え、3歳未満児の入所希望が増加傾向にある中で、不足する保育士をどう確保していくかが課題となっています。

ファミリーサポートセンター会員数の推移



◆施策の取組方針

- ▶ 「第2期須坂市子ども・子育て支援事業計画」及び「子どもは宝プロジェクト」により子育て施策全般の充実を図ります。
- ▶ 地域全体で子育て家庭を支えることができるよう、子育てに関する意識啓発などを進めます。
- ▶ また、子どもとその家庭、特に要支援児童・要保護児童等に対し必要な支援を行うため、「須坂市子ども家庭総合支援拠点」を設置し体制強化を図ります。

◆主な取組内容

(1)子育て環境の整備

子ども課

取組項目	具体的な内容
子育て支援サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 中央児童相談所や健康づくり課等との連携と情報共有による継続した支援の実施 ◇ 子育て世代包括支援センターによるワンストップ相談『おひさま』の実施 ◇ 子育て支援センターの子育て講座や交流事業などの充実と高齢者の活用 ◇ 子育て支援センターの施設整備への指定管理者制度導入の検討 ◇ 「須坂市子ども家庭総合支援拠点」の設置による専門性をもった機関・体制の整備 ◇ ファミリーサポートセンター事業の提供会員の登録促進 ◇ 子育て家庭の経済的負担軽減
保育サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 保育園の待機児童ゼロ維持に向けた保育士確保の強化 ◇ 非正規保育士の処遇改善や保育環境の整備 ◇ 市内保育園全園と認定こども園での0歳児保育の実施 ◇ 第2子及び多子世帯の経済的負担軽減 ◇ 保育の質や保育士の専門性向上のための研修実施 ◇ 私立保育園等と連携した特別保育事業(延長保育、病後児保育等)の充実 ◇ 子ども一人ひとりの“食べる力”の育成 ◇ 小学校の英語学習への滑らかな移行を図るための早期の英語活動の実施 ◇ 小学校の放課後及び長期休暇期間中の児童の適切な遊び、学びの場の提供
地域の子育て環境整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 様々な活動をおこなう団体や子育て支援サービスなどのネットワーク構築 ◇ 関係課等と連携した子育て支援センターの施設整備 ◇ 子育て応援メルマガなど様々な媒体を活用した子育て情報の提供 ◇ 祖父母の子育て参加促進

取組項目	具体的な内容
	◇ 関係課との連携による企業の育児休業制度などの普及と啓発
特別な支援が必要な児童・保護者への対応	◇ 関係機関との連携による児童虐待防止対策の充実と早期発見・早期支援 ◇ すこやか相談事業による発達障がい等の早期発見・早期支援と保育士や保護者に対する支援の充実 ◇ CAP 研修(人権教育プログラム)の実施 ◇ 学校教育課との連携による、支援が必要な児童の小学校就学へのスムーズな引継ぎの実施 ◇ 保育園及び児童センター、放課後児童クラブにおける障がい児等の受入推進

【プロセス指標】

指標名	現状値(年度)	目標値(2025年)
子育て支援センター利用者数(人)	14,939(2019)	15,000

◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	子育ての悩みを抱えず周囲やセンターに相談します 子育ての仲間をつくり、地域での交流を行います 子育て世代をあたたく見守り、できる範囲でサポートします
企業	子育てと両立しやすい職場環境をつくります
活動団体	子育てを支援するさまざまな活動を実施します

基本施策5 次代を担う人材を育むまちづくり

施策10 特色ある教育の推進

◆施策の目指す姿

- ▶ 地域の子は地域で育てる基本理念の下で、主体的・対話的な学習やICTの活用等を推進し、次代を担うたくましい人材を育む教育のまちを目指します。

【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値(年度)	目標値(2025年)
市民意識指標	「特色ある魅力的な学校づくりの推進」の満足度(%)	31.6(2019)	33.2
統計指標	学校に行くのがとても、あるいは概ね楽しいと答えた児童生徒の率(%)	89.4(2019)	93.9

◆現状と課題

- ▶ 基礎学力の向上に向けた児童生徒の個々の分析や検討に取り組み、対策を進めていますが、全国学力テストや総合テストの結果を見ると、年度によって理解度に差が生じていることが課題となっています。
- ▶ 不登校対策として学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、不登校児童生徒支援員等が連携し、家庭への支援も含め、児童生徒の将来的な「社会的自立」に向けたきめ細かな支援に努めていますが、不登校児童生徒の減少に至っていない現状があります。
- ▶ 情報教育に係るICT環境整備については、1人1台端末による新しい学びのあり方と効果的な学習方法を早期に確立し、それをいかに磨き上げていくかが課題となっています。
- ▶ 支援を必要とする児童生徒のために、インクルーシブ教育の考え方もふまえ、適切な就学の間を選定し、個々に寄り添った丁寧な支援を行う必要があります。

◆施策の取組方針

- ▶ いじめ防止対策及び不登校対策は、今後も最重要課題として捉え、子どもの気持ちに寄り添いながら、学校、関係機関等が連携し、家庭への支援も含め、児童生徒の将来的な「社会的自立」に向け、更にきめ細かい支援に取り組みます。
- ▶ 児童生徒の減少が予想される中、小中学校のあり方について検討を進め、学校規模適正化等の教育環境の整備を図ります。
- ▶ 地域の教育力を、学校教育やふれジョブなどの活動とつなぎ合わせ、人材育成の循環環境を整えます。
- ▶ ICT機器等を活用し、個別最適化した学習環境の整備と、自ら問いを立て、探究しながら答えを探す、主体的・対話的な学びを定着します。
- ▶ 教員が雑務に割く時間を減らし、児童生徒に向き合える時間を増やすことで、働き甲斐のある教育現場に変革します。

◆主な取組内容

取組項目	具体的な内容
基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 基礎学力の定着確認と指導改善 ◇ 教職員の研修の推進 ◇ 各校の優れた取組みや工夫を共有化するためのデータベースの検討 ◇ 学力向上担当指導主事の配置
特色ある教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 社会科副読本「私たちの須坂市」の活用によるふるさと教育の推進 ◇ 各学校の自主性や地域性を活かした特色ある教育・学校づくりの推進 ◇ 職場体験に関する支援の検討 ◇ 「理科大好キッズ育成事業」「峰の原高原自然体験学習」など須坂市独自の特色ある教育の推進
特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 関係機関との連携による障がいのある子どもやその保護者の相談支援（教育支援） ◇ 教員補助員の配置など子どもの特性に応じた適切な支援 ◇ ふれジョブ活動（支援を必要とする子どもたちの職業体験）の支援
不登校対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 指導主事や家庭児童相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等、専門職・関係機関の連携 ◇ 不登校児童生徒全体の支援の方向を検討するスクリーニング会議や個々の児童生徒の支援を検討する支援会議の実施 ◇ 中間教室の運営 ◇ 不登校児童生徒支援員の配置の推進
いじめ防止対策の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「須坂市いじめ防止基本方針」を踏まえた、いじめの早期発見と早期対応の実施
学校施設・設備など教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 更なる教育 ICT 環境の整備による情報活用能力の育成 ◇ 教員の業務量の縮減と働き方改革の推進 ◇ 小中学校のあり方等、教育環境の整備を検討
教育の機会均等の確保	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 就学援助制度による必要な家庭への適切な支援
学校と家庭・地域の連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「信州型コミュニティスクール」の推進
食育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 「つながる食育推進事業」の展開 ◇ 各課と連携した地産地消の推進 ◇ 安全な食物アレルギー対応食の提供事業の実施

【プロセス指標】

指標名	現状値(年度)	目標値(2025年)
朝食を欠食する児童生徒の割合(%)	児童 0.6(2019)	現状以下
	生徒 2.1(2019)	現状以下
不登校児童・生徒の新規人数(人)	児童 13(2019) 生徒 21(2019)	児童 10 生徒 17
教職員ストレスチェックにおける高ストレス判定者の率(%)	9.8(2019)	8.2

◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	家庭の教育力向上のために講演会やPTA活動に積極的に参加します 朝ごはんで子どもたちの健康と体づくりを支えます 信州型コミュニティスクールに協力します
企業	地域教育など特色ある教育の実施受入等に協力します 学校やふれジョブ活動の職業体験に積極的に協力します
活動団体	支援の必要な児童・生徒への支援活動を行います 活動団体のノウハウを生かして学校活動を支援します

施策 1 1 児童・青少年健全育成の推進

◆施策の目指す姿

- ▶ 子どもたちが家庭や地域の中で様々な体験や交流を通じて自ら生きる力を育み、生まれ育った地域への誇りや愛着をもてるまちを目指します。

【成果指標】

指標の種類	指標名	現状値(年度)	目標値(2025年)
市民意識指標	「児童・青少年健全育成の推進」の満足度(%)	28.8(2019)	29.0
市民取組指標	「地域の子どもの健全育成活動に携わっている」人の割合(%)	19.0(2019)	20.0

◆現状と課題

- ▶ 少子化の進行や地域での関係の希薄化などにより、子育て家庭や地域を取り巻く環境が大きく変化しており、家庭や地域、学校とのさらなる連携が必要です。
- ▶ 家庭、地域、学校の連携により、的確に子どもたちを取り巻く状況を把握していく必要があります。
- ▶ インターネット・SNS の普及などにより外出する児童・生徒が少なくなり、子どもたちの活動実態が見えにくくなっています。これまでの児童青少年育成委員会による街頭補導活動など、健全育成のための活動を時代に応じたあり方に見直していく必要があります。

◆施策の取組方針

- ▶ 「地域の子どもは、地域で守り育てる」ために、家庭・地域・学校が連携し、健全育成事業を推進します。
- ▶ 人と人の触れ合う機会が減少する中で、子どもたちが自ら考え行動できるよう家庭・学校、地域が連携し、子どもたちが様々な体験・交流する場を確保します。
- ▶ 地域の子ども会のリーダーとなる人材の育成や子ども会活動を支援する「須坂リーダーズクラブ」の活動支援などにより、須坂市の未来を担うリーダー的人材を児童・青少年のうちから育成します。

◆主な取組内容

取組項目	具体的な内容
家庭・地域の教育力向上	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 家庭・地域の教育力を向上させるための、「子育てセミナー」等の開催 ◇ 「家庭の日」の普及啓発をすすめ、家族のふれあいを促進 ◇ 児童青少年育成委員会「善行賞」の推進 ◇ 地域でのあいさつ・愛の声かけ運動の展開
家庭・地域・学校の連携	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 子ども会育成連絡協議会(各町育成会長の組織)との連携による子ども会活動や「子どもフェスティバル」など、子どもたちの主体的な活動の実施支援 ◇ 地域の子ども会のリーダー養成研修の実施 ◇ 小学校 OB による「須坂リーダーズクラブ」の活動支援

	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 健全な心身を育み、交流を深めるための屋外活動やスポーツ活動の充実 ◇ 地域の育成会が行う活動への支援 ◇ 自然や農業の楽しさ・厳しさを体験する「農業小学校」の実施 ◇ 姉妹都市三浦市との児童・生徒の親善交流の実施
非行防止・環境浄化活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 街頭巡視補導活動など児童青少年育成委員の活動内容の見直し ◇ 表面化しないインターネット・SNS 等、子どもを取り巻く犯罪・事件の未然防止 ◇ インター周辺開発に伴う遊興施設等の利用に関する対応

【プロセス指標】

指標名	現状値(年度)	目標値(2025年)
住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合(%)	89.8(2019)	90.0
子育てセミナーの年間件数(件)	52(2019)	50
児童青少年育成委員会善行賞の累計件数(件)	74(2019)	84

◆共創のまちづくりに向けた各主体の役割

主体	期待される役割
市民	家庭でインターネットやゲームの使用ルールを決め、子どもと話し合います
企業	児童・青少年を見守ります
活動団体	児童・青少年の健全育成にかかる地域活動を支援します